

運輸安全への基本的考え方

日本郵便は、経営トップ自ら安全衛生の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社員が安心して働ける健全な職場の実現に向け、一丸となって取り組んでいます。

「安全衛生に関するマネジメント体制の維持・改善・向

上」、「法令及び社内規程の遵守」、「集配、渉外活動中及び局内作業の安全衛生確保に向けた取組強化」、「安全衛生確保に関する全社員に対する教育の実施及び効果検証・改善」の四つを安全衛生に関する基本方針として掲げています。

運輸安全への取り組み

車両を運転する社員への安全教育

郵便局を出発する前に、日頃、通行している道路や交差点の写真等を使用して、どのような危険が潜んでいるかをイメージする「危険予知トレーニング(SKYT)」を行って危険感受性を高めています。

また、乗務する車両に応じて、二輪車は積載荷量に応じたバランス感覚を得るために一定の幅の板の上を真っ直ぐに走行する訓練、四輪車は車両感覚を得るために車両の幅に引かれた二本線に沿って走行、停止する訓練を実施しています。

定期的に指導役の社員が、二輪車の後方から伴走し、また、四輪車の助手席に同乗することにより、車両を運転する社員の運転状況の確認・指導を行っています。さらに四輪車には、加速度センサーが付いたドライブレコーダーを装備し、走行時のデータを活用した事故防止のための指導を行っています。



日常訓練の様様

安全運転指導員の配置

日本郵便では、集配を受け持つ郵便局に安全運転技術指導を担う安全運転指導員を配置しています。

安全運転指導員のレベルアップを図るため、二輪車および四輪車の高度な運転技能・知識・指導力を競う「安全運転コンテスト」を開催しています。(2018年度は二輪車63名、四輪車65名の合計128名が参加)



安全運転コンテスト

●運輸安全に係る目標値及び実績値

目標	重大事故発生件数	0件
達成状況	2016年度	5件(死傷事故4件、車両故障1件)
	2017年度	2件(死傷事故1件、車両故障1件)
	2018年度	1件(健康起因事故1件)